

令和2年度 自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」学校長



学校運営計画（4月）				評価（総合）	
④ 学校運営方針	職業的自立及び社会参加を実現する意志と実践力を有し、誇りと思いやりをもって他者と接する人間の育成をめざす。				
⑭昨年度の成果と課題	⑥年度重点目標	⑦具体的目標			
<p>成果：昨年度は、本校の学校グランドデザインの趣旨を校内で共通理解するとともに、グランドデザインに基づく学年、分掌での運営計画の作成を行った。あわせて、職員一人一人についても、グランドデザインの4区分28項目に沿った目標と具体的方策を設定し取り組みを進めた。取り組みの進捗状況については、毎月の職員会議で各学年や分掌の取組状況を視覚化して提示することで、取組の強弱を把握することができた。</p> <p>課題：昨年度末から続いている臨時休業等に対応する諸行事の見直しや学校、寄宿舎生活の安心・安全の確保など、学年と分掌計画の取組がPDCAサイクルで進捗できるように柔軟なシステム構築を改めて進める。</p>	A 職業教育の充実	a 生徒、保護者のニーズに合った就労を実現するために、学年・進路指導部の連携を密にして効果的な実習の機会を確保する b 次年度以降の就業体験の実施方法を決定するために、本年度に取り組む就業体験の成果と課題を整理し、効果的な実施形態を検討する c カリキュラム・マネジメント推進委員会と学年、分掌間の連携の充実を図り、教育課程の在り方を見直していく d 就業体験や職場実習で得られた生徒の課題の傾向を把握し、職業教育のさらなる充実を図る			
	B 生活教育の充実	a 卒業後を見据え、生活管理能力を定着させるために学校、寄宿舎、家庭及び関係機関が密に連携し、職業生活における必要なスキルの育成を図る b 生徒の自主性や自立心を育むために自治会活動や余暇活動のさらなる充実を図るとともに、ルール緩和の検討・見直しを行う c 個や状況に応じた適切な指導・支援を行うために指導記録簿や生活自立段階表等の活用、研修や棟会議等の充実を図る d 生徒が安心して安全な環境で生活し学ぶことができるように、環境の調整、設備の充実支援の手立ての検討を行う			
	C 学年等経営の充実	a 他者と協調し、自らの役割を責任をもって果たそうとする態度を養うために、学校行事や学年、学級活動等をとおして様々な経験を積ませる b ホームルーム活動や各教科の指導をとおして、他者を尊重する態度を育てる c 社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶の徹底、決まりの遵守、整理整頓等の意識の向上を図る d 将来の職業生活及び社会生活についての意識を高める働き掛けを行うために、就業体験や職場実習等をとおして、一人一人の進路についてのニーズを把握する			
	D 学習指導の充実	a 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すとともに、コミュニケーションの効力感を高める学習指導の充実を図る b ミッションや学校教育目標を踏まえて教育内容を整理するとともに年間指導計画を立案し、月ごと、学期ごとに振り返りを行い、指導の改善工夫を図る c 生徒の実態により適合した教務内規になるよう整理する d 職員の専門性向上のために学習・生活指導に関して外部講師を招聘した職員研修を実施するとともに自立活動の充実を図る			
	E 心と体の学習指導の充実	a よりよい人間関係が築けるように校内連携の充実を図り、教育活動全体をとおして社会的スキルを身に付けさせる b 生徒の自尊感情を育むために、生徒の的確な実態把握を行い、授業や寄宿舎生活の中で称賛する場面を多く作る c 職業的に自立し、健やかな社会生活を営むために、健康・安全や食・性に関する教育を行う d 心の安定を図るために、家庭や関係機関との連携と併せて、生徒が自己を知り、対応する力を付けられる取組を推進する			
	F 校内外の連携強化・充実	a 学校とPTAとの連携を強化するとともに保護者や卒業生の様々な不安や将来の生活設計に対応するため、情報共有を図る b 特別支援会議を定期的に行い、校内支援体制の充実を図る c 対外的なセンター的機能の充実を図るため、教育相談のシステムを整備し取組む d アンケート結果を反映させた学校見学の実施や行事等の様子を載せたHP作成をとおして積極的な広報活動を行うとともに各教育事務所との連携強化を進め、小・中学校への情報発信を行っていく			
	G ミッションを踏まえた専門性と組織力の向上	a 学校評議員や外部専門家との連携強化を図り、チーム学校として専門性の向上及び組織力の強化を図る b スクラップアンドビルドによる行事の精選、教職員の業務改善等を行う c 組織の専門性の維持、向上のために文書保管・管理システムを整備する d 若年者、ミドルリーダーの育成のためにOJTの充実を図る			
	評価項目	⑧具体的目標	⑨具体的方策		評価（3月）
	教務部	カリキュラム・マネジメントによる個やグループに応じた学習指導の充実を図る。(A-c)	ミッションや学校教育目標の実現に向けて、職業的自立に必要な教育内容を整理するとともに、教科等の年間計画の立案と月ごと学期ごとの振り返りを通して、学習指導の工夫改善を図る。		
		ホームページの活用等を通じて小・中学校や地域への積極的情報発信を図る。(F-d)	学校見学やホームページの活用、見学者への福学クリアファイルの配布等幅広い広報活動を推進するとともに、各教育事務所との連携強化を図り、学校だよりの配布を依頼する等して、小・中学校への情報発信を行う。		
第1学年	対人関係力、規範意識を育成する。(C-a, b)	「集団の一員」という自覚をもたせ、他者と協調し自らの役割を責任をもって果たす態度を養うために、学校行事や学年、学級活動等を通して、生徒の実態に応じて他者と関わる様々な経験の場面を設定する。			
	将来の生活について意識を高める。(C-c, d E-c)	将来の生活への意識を高めるために、卒業後の姿をイメージできるような就業体験を計画・実施する。また、社会人としてのマナーを身に付けることができるようにするために、「挨拶・返事、5分前行動、整理整頓、リスペクト・アザース」の指導を特に徹底する。			

第2学年	生活管理力を育成し、定着させる。(B-a)	基本的な生活習慣を身につけるために家庭や寄宿舎と連携して個別の支援・指導を行う。				
	対人関係力、規範意識を育成する。(C-a, b, c)	他者と協調し、自らの役割を責任もって果たそうとする態度を養うために学校行事や学年、学級活動等とおして様々な経験を積ませる。社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。				
第3学年	規範意識を高めるために、集団の一員という視点で考えることができるような指導を充実させる。(C-a・c)	場の意味を確認し、場を共有している他者の存在を意識できるようにする。社会参加のために求められる態度について具体的に示し、行動を促す。				
	対人関係力を高め、心身の安定を図るために、心と体の教育を充実させる。(C-b・E-d)	対人関係力を高めるために必要な挨拶の徹底、相談のスキル、感謝の気持ちの伝え方などの指導を行う。また、心と体のバランスを保つことができるためのセルフコントロール力の育成を図る。				
生徒指導部	いじめのない学校づくりを行う。(E-b)	生徒の日頃の行動を観察して状況把握に努め、必要な情報については全職員で情報を共有し生徒指導に活かす。また、学年や特別教育支援部と連携して、生徒の精神的状況や特性の理解に努める。				
	学年、寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(E-b・d)	いじめアンケート終了後、気になる生徒と個別面談や「相談週間」を設定し、早期発見・早期対応を心掛け情報を共有し指導の充実を図る。				
		学年、寄宿舎の指導方針の共通認識・相互理解を深めるとともに、相互の環境で起こった問題行動を共有し、生徒指導にあたる。学級担任・寄宿舎部屋担任との密な情報交換ができるように関係者・分掌に働きかけるとともに、内容に応じては、学年全体または全職員への情報の説明(提示)を行う。				
進路指導部	生徒の希望職種、実態を踏まえた職場実習、就業体験の受け入れ先の確保に努める。(A-a)(A-b)(C-d)	保護者、職員から職場開拓につながる情報収集を積極的に行い、適宜開拓することで、生徒の進路実現につながる企業を増やしていく。 3学年職場実習を推進するとともに、1・2年生の就業体験とのつながりの在り方について検討する。				
寮務部	生徒の自主性や自立心を育む。(B-b)	寄宿舎内のルールの緩和について寮務運営会議で検討し、学校との共通理解の下で実施する。すでに実施しているものについても短期、長期のスパンで見直しを行う。				
	生徒が安心して安全な環境で生活し学ぶことができる寄宿舎の運営及び体制づくりを行う。(B-d)	舎監を交えた職員避難訓練や生徒用の危機管理マニュアルの作成等を行い、必要な物資や情報、人員配置等の見直しを行う。				
	寄宿舎の魅力作りに努め、その発信を行う。(E-b, F-a, F-d)	学校見学における寄宿舎説明及び寄宿舎見学の内容の見直しを行い、リーフレットの作成やHPの充実を行う。				
保健部	生徒の健康管理意識を高めさせる(E-c)	寄宿舎と連携し、生徒個々の身体状況や健康状態の把握に努め、体調不良の生徒に適切に対応する。 インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症に対応する方法を具体的に指導する。また、罹患生徒が発生した場合は迅速に対応する。				
研修部	生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せる学習指導についての研修を推進するとともに、自立活動の効果的な指導内容・方法についての研究を行う。(D-a, d)	自立活動の理論研究を推進することで、ねらいや内容の位置付けを明確にした授業の在り方についての研究を進める。 特別支援教育、特に知的障がい・発達障がいに関する専門性を高めるため、各分掌と連携を図り、効果的な研修を計画・実施する。 校外における研修会について、掲示板等を活用し周知徹底する。				
特別支援教育部	校内支援体制の充実を図る。(F-b)	外部専門家の助言を生かした支援チーム会議、特別支援会議等を行い、学年、分掌との連携を推進するとともに、校内における関係者会議と連動した校内生徒支援体制の強化を行う。				
企画庶務部	PTA役員と連携し、PTA活動を推進する。(F-a)	PTA役員を中心として、文化祭、研修会などのPTAの取り組みを推進する。				
	学校ホームページや広報誌などを通して、本校の広報活動を行う。(F-d)	学校ホームページの定期的な更新を行う。 日ごろの教育活動や学校行事の写真を定期的に掲示する。				